夕刊
常磐毎日
発行所
平市田町75
常磐毎日新聞社
電話1210
編集印刷発行人　吉田

日雇者の動き微妙
サボ就労者は断固排除

自由労務者の平均賃金二十円値上げを明に平職安　失対事務所では関係各町村と協議の上十六日以降八時間就労厳守と応能給制の実施を通告、応じない労務者に対しては歩引或は就労排除を断行する旨明かにしていたが　これを不当とする平自由労組では十五日早くも反対の態度を表明。十六日には好間村川中子現場の労務者およそ九十名が反対サボ戦術の挙に出て現場監督を吊し上げるなどその成行は微妙な動きをみせ　失対事務所では　これらサボ就労者に対しては断呼たる態度で望み場合によっては登録から排除する強硬策で臨む方針であり成行が注目されている

警備は威壓的だ
内郷労組が職安に申入れ

八時間就労と応能給実施の第一日十六日の各地の状況は次の通り　最も注目された内郷地区では不測の事態を予想して同地区署員らが現場附近の警備に当つていたが　至極平穏、特に平市上荒川現場などでは平常の三倍にも達する好成績を挙げた

なお斎藤組合長ら代表五名は同日平職安佐藤所長と面会「吾々は自主的に作業能率を上げようとしているのに警官を現場に要請して威圧するとは不当である　かえつて仕事が出来ない、今後このような不当威圧は止めて慾しい」と申入れた

好間では
監督をつるし上げ

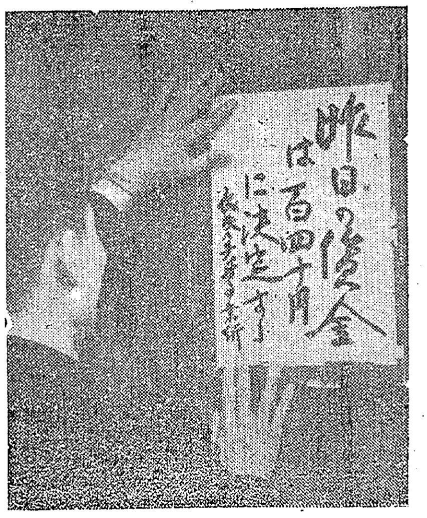
好間村川中子現場のおよそ九十名は同日午後からサボ戦術に入り、現場監督の戸田源三郎（三三）松崎源一（三三）の両氏に対して「一日分働いた証明を出せ　最高給の三円収入印紙をはれ」と要求

両氏から一日分は認められない　軽作業の百四十円を承認すると要求をハネられるや、平川一郎（三二）ら組合員十四　五名が丸太棒やスコップを持つて現場事務所に押し込み　両監督を吊しあげたので　両監督は仕方なく一日分の支払を認めたが

平職安　失対事務所では事態を重視　両監督は脅かされて認めたものである、当局としてはあくまで軽作業と認定　十七日に印紙のはり替えを断行する

また不当労務者は遠慮なく行政処分でのぞむと強い態度を表明

十七日早朝現場に、前日の賃金は歩引きして百四十円を支給すると張紙で告示した（写真は現場の張紙告示）



平労組は
二時間半の就労

また平市谷川瀬現場で作業中の平自由労組四十八名と平市八幡小路で就労する同労組二十五名は、予定時刻の三時まで働かず、組合の認めた時間だと言う二時半に引上げてしまつたので

平職安ではこれに対しては三十分の歩引を実施する旨申渡した

高坂御殿で
現場監督つるし上げ

十七日午前八時半ころ内郷町高坂字御殿地内失対現場では現場監督の深谷技師が松野紀元氏ら五十余名の労務者に吊し上げられ。堪えかねて内郷地区署高坂巡査派出所に保護を願出た

なお好間大館地内の労務者は十七日から八時間就労反対サボタージを開始した

四名 好間 就労停止
査察班を派遣して粛正

平職安所では十六日二十一名の査察班を組織して管内十一ヶ所の失対事業現場の不正就ろう査察に当つていたが、内郷自由ろう組石崎恒四郎（四五）同菅野幸吉（三四）同菅野弘（三四）同北部昭雲（六〇）の四名が代替就ろうをしているのを摘発、同人らを十八日から三十日まで就ろう停止処分と決定

更に十六日好間村川中子現場で現場監督に対し脅迫行為を行つた平川一郎（三二）木村一章（三九）高野健司（三八）西泉清（三二）の四名に対しては十八日より明年三月まで就ろう停止処分決定　十七日それぞれ通告した

印紙貼替断行

なお好間村川中子現場のろう務者およそ九十名は十七日も朝からサボ戦術の挙に出て就ろうせず。平職安及び失対事務所では十数名の査察班を現地に派遣対処するなど昨日強要された印紙のはり替えをめぐつて険悪な空気にあつたが　同十一時ころ就ろうした、失対事務所では既定通告通り印紙のはり替えを行つた

内郷で座談会

内郷町では明るい社会建設のため十八日午後五時半から同町公民館に座談会を開く

湯本青年学級

湯本町青年学級委員会は十八日午後六時半から同町公民館で開らき十月青年学級のカリキウラムについて協議する

四倉町で
労基法説明会

四倉町公民館では十七日午前九時から、町の事業主及び飲食店組合の主人を集めて、現在使用人又は雇人について、今だに労基法を知らない主人公が多いので、平労基署より職員を招えて説明会を開らいた

カメラと材料は…
飯田カメラ店
平市二丁目電一三六五

赤井二小運動会

赤井第二小校及び同二中校の合同陸上運動会は、二十日午前八時から同村二中校々庭で挙行される雨天順延

石城は全國一の凶作
県調査団一行の冷害白書発表【上】

県議会経済委員会委員長田原徳氏ら一行六名は十二日に農業委員、町村長、地方事務所冷害対策委員一行は十四、五　六の三日間管内稲作状況を視察調査して来たが、その被害率が予想以外に大きく多いのにびつくりしていた　調査によると収獲皆無は作付面積の三割、実に二千四百五十町歩に達し日本一の凶作地であることが判明した、今年の凶作は明治三十八年以来の大凶作となつている、特にひどいのは山間部で全滅状態に落ちやゝ良好なのは平と好間だけと言はれる　全滅（収獲皆無）は二千四百五十町歩に及び、現在穂の出ていない農林系は開花期を失つているのでこれも全滅するものと見ている　また残りの六千五百町歩も収獲は四乃至五割でこのまま天候が回復しなければ三割収獲から管内全地域水稲の全滅が予想され百姓さんも稲作の手入はしてもしなくても同んなじだと放り出している、凶作のため現在の本年収獲最高予想は生産目標の四分の一五万石を下廻るものとみられる　収獲五万石は昨年収獲の十七万八千九百八十五石を十三万石下廻り農家保有米六万石が不足となつている、今年は冷害と病虫害におかされていない稲は一町歩もなく特にいもち病にかかつたのは全滅している　川前村小白井部落はこの惨状を視察に来た県会議員にみてもろおうと部落民の車を道路に止め調べて惨状をなつとくしてもらはない限りはこの道から調査団を一歩も外に廻さないと道路に部落民約六十名がすわり込みを始め議員一行も仕方なく午後三時から約二時間にわたつてつぶさに調査したと言はれる、また川前、大浦　三阪沢渡　川部　渡辺の各町村では陳情班を編成　十七日には大挙して石城地方事務所若月所長に面会今年の暮か来年の暮から米の配給をまたこの配給を受けるため貧農家には救災事業による仕事の斡旋　来年の種もみの斡旋を要望した（続）

もみ抜く合併論
湯本合併の陳情団帰村

去る十四日湯本に合併したいと十四日出県した　鹿島村の湯本合併期成同盟会長箱崎義明氏ら代表十六名は福島で、渡辺鉄太郎県議会副議長ほか県主脳部と丹野副知事室で合同会見し

湯本町合併こそ鹿島村住民の最善の途であるとの住民連署の請願書を提出、代表らは十五日帰村したが、県首脳部の意向を打診したところ、「現状下では合併問題事態が復雑多岐で手がつけられないが、円満解決策を講じているから協力してもらいたい」と懇請され

さらに某県議は

「一つの地域社会を構成するには小名浜町は泉町と合併されるのが最も適切であり、考慮しているが小名浜町が鹿島村と合併しても市制執行はされない」と言明している点からみて

鹿島村合併問題は今県議会に提案保留となるもようの如く、相当年月を要するのではないかとみられ今後の県当局の動行が注視されている

湯本町も
鹿島合併陳情

なお湯本町では十五日小井戸厚生委員長ほか二名が出県して　県知事　県議会に鹿島村との合併問題について陳情を行つた

十月平競輪

十月平競輪は、前節三日から五日までの後節は十日から十二日まで挙行と決定した

常磐電話変更

常磐炭鉱磐城砿業所では廿一日から平市内電話を左記五回線に変更された、従つて従来の八四〇番から八四二番は廃止された

平局加入電話一八四〇番から一八四四番まで

湯本厚生部会

湯本町厚生部会は十九日午後六時半から同町公民館で開らき、九、十月行事について審議する

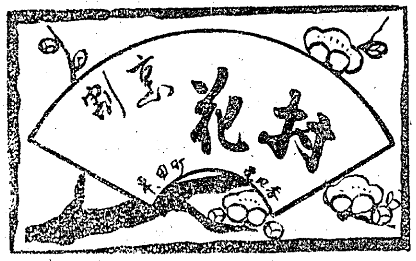
高徳院葬送の際は御多忙中にも拘らず遠路態々御会葬下され且つ御鄭重なる御香奠を賜りまして洵に有難く御礼申上げます
一々拝趨の上御礼申上げる処で御座いますが略儀乍ら紙上を以て御厚礼申上げます

昭和二十八年九月十七日
平市白銀町十三
喪主　高柳博明
外親戚一同

味な看板
出前迅速
電1753番
たいら食堂
公会堂通り

八重椿
マロニエポマード
一〇〇エン
各有名化粧品店に有
髪の香水―
八重椿フラワー香油
一〇〇エン

銘木の御用は
ベニヤ板各種　床柱　天井板
格安販売多少に拘ず
丂 織田銘木商店
平市紺屋町電四六〇番



紳士用・婦人用
調製と
修理の店
指定商の店
深谷靴店
中央通り　電1、168番

電話新設
一七八四番
平市田町
貸席　小よし

▲電話変更お知らせ
電話　一七二三番
ヒトナヂミ
（旧二二四七番改め）
氷室（夜間早朝いつでも配達致します）
なじみ燃料　卸小売問屋
平指定商チケット御利用下さい
平市本局裏

新設電話
電話一、七六九番
電話開通致しました
何卒御利用下さい
島津製作所浜通り代行店
物理器械　化学器具
度量衡　計量器
動植物　研究具
視聴覚　教材
モロハシ理化器械店
平市田町並木通り五四

正直たわし
他品に負けぬ
使い良い
高砂ほーき

電話新設お知らせ
◆一、七一三
電話番号が変更いたしました
何卒御利用の上御引立御愛顧を御願い申上げます
寿司
和洋料理　大衆食堂
有楽
出前迅速
平市聚楽館通り

新設電話御知らせ
電一、八三二番
河原屋豆腐店
古川イチ
平市南町本局裏

電話新設お知らせ
電一、七九〇番
広告マッチ　御箸
カレンダー　名入広告品
サトー広告社
平市田町二五

城坂踏切存置運動
壹万名の署名を市に陳情

城坂踏切廃止をめぐり委員会を組織して反対運動をに起ち上つた才槌小路、城山などの住民は、その後市内全般に呼びかけて反対署名運動を行つていたが、十七日才槌小路、城山、田町、紺屋町の各区長らを筆頭とする一万名の署名を添えて、平市当局に陳情書を提出する一方、金古議長宛請願書を提出した

首脳部は逃げ腰
さわらぬ神に祟りなしと

城坂踏切の廃止については「跨線橋建設の条件として廃止を市会で決議したのであるから」「白銀官舎の移転問題など今後国鉄との交渉分野が広いから今感情を害しては」云々と市当局はいずれも乗気なく廃止後に於て善処すると企みな逃げ口上で其の場のがれ的な態度を示しまた地元民の陳情を受けた時の運輸委員長関内さんも「市当局の方から了解なければ云々」と相談にも乗らず。「さわらぬ神にたゝりなし」の様相を呈しているが

このような当局の不誠意がかえつて踏切廃止反対えの同情と変つて盛り上りつゝあり また反対運動を続ける区民らは更に一万名の署名を持参して近く国鉄当局にも大挙陳情する準備を進めており成行きは注目される

関係者の弁

なお平市長は陳情団に対し「反対の声が全市民の声として巻き起つて来るならば私達も喜んで皆様の先頭に立つ」と先般答弁しているが

伊藤助役は「市会で決めたものを今更どうにもなるまい、国鉄との今後の問題もあり いたずらに感情を害すことは出来ない、廃止後の善処策は考えたい」と語り全く望みはない

水竹市議は「当時私達が先頭に立つて廃止の条件を申入れ跨線橋の建設を急いだ関係から、今更反対運動で国鉄当局に押しかけるわけには行かないが、地元民が強力な反対運動を推進することは反対しない、現在のまゝで済むものなら幸いだが先ず無理だろう」と語つている

平三小運動会

平三小校の秋の運動会は、十九日（土曜）午前七時半から同校々庭で催される

ガソリンカー運轉實現に
期成同盟会役員を決定
新発足した

常磐線勿来ー富岡、磐越線平ー川前間のガソリンカー運転実現を期す石城 双葉の関係十九ケ市町村長及び議長ら約三十名は十五日午後一時から平市役所に集つて促進策を協議した結果、関係町村一体となつた期成同盟会を結成することに決 会長に平市町、副会長に高木石城町村会長、同郡議長会長、同早川富岡町長 同和田久の浜議長 理事沼田内郷町長外三十二名を選任 更に高木、松井、関内各代議士、石城、平、双葉選出の各県議を顧問に推選して

戦前は運行
復活だから実現可能の公算

戦前に於ては昭和十一年四月から湯本ー久の浜間と平ー小川郷間にガソリンカーが運転され昭和十七年九月まで続いたが、戦時中のガソリン不足から中断されてしまつたもの

現在の見通しでは来年度に於ては実現可能と目られているが、期成同盟会では 市を中心とした石城地区の実現から今年度実現を期して参衆両院に請願書を提出する一方、近日中に国鉄当局に大挙上京して陳情することになつている

一日平均二万余人の通勤通学者を控いる当地区としては期待大きい

牛君モウ駄目だ

好間村大字下好間字川中子地好間川の木橋で 十七日午前十時頃こやしおけを満載した牛車が橋を渡ろうとした時、傍らの失対事務所工事現場で監督者側とこぜり合いを演じていた自由ろう務者達の騒ぎに驚いた牛君が、足を踏みすべらして橋上から川中に真逆様にあわやと言う間に川水は黄色に染まつて時ならぬ匂い 牛君身をひるがいして立直つたがモウだめだと悲しい声を一声二声（写真牛は下に立ち直つたモウ君）

内郷労組も拒否

十五日午後失対事務所但野所長は能率給断行に先立ちこれに不満を持つている内郷自由労務者組合組合長斎藤隆行氏ら幹部四名、磐崎自由労務者組合長佐藤義夫ら幹部二名を招き十六日から「能率給式の応能給制を行うから了承してもらいたい」と懇談的に申入れたが代表者らは「二百三十円上つても生活は出来ない、八時間も就労しては我々の生活がおびやかされる」とこの申入れを拒否、遂いに物別れに終り今後の動きが注目されている

晩秋蚕の初出荷
川前村が今年もトップ

晩秋蚕の初出荷は二十二日今年も川前村がトップをきつて九十貫を片倉工業平工場に出荷する、当地方は晩々秋蚕も季節の都合晩秋蚕に繰入れられる晩秋蚕の出荷予定量は生繭一万四千貫となつている

四倉4Hク員
宮城農校視察

四倉町4HC会長菅木光一氏外十五名は十三日宮城県宮城農学寮へそ菜関係視察の為、出発同日夕刻帰町した

美人の飛込自殺

十六日午後八時十分ころ好間村大字下好間字茂井地内の磐越東線を進行中の下り五二一列車ー機関士広瀬富（三五）助手駒場富人（三七）ーは前方に人影らしい姿が飛込んだので急停車をしたが間に合はず、五十米程引ずつて停車したところ二十才前後の女が、飛込自殺を図つたもので

右足 右腕切断 右足ほか四ケ所の滑折 数十ケ所の裂傷を負い虫の息になつているので市内安斎病院にかつぎ込んだが、出血多量で午後十時四十分死亡した

所持品はエンジ色の花模様入りパラソル一本きりで

年令は二十才ぐらい、丸顔、背たけは四尺九寸位服装はミカン色セーター濃紺純毛スカート白木綿シミズ、同シャツ靴はパンプスをはいていた なお死体は好間村役場に引渡し同村下好間長興寺に仮埋葬をした

身元判る
仲町の美人女中

自殺した少女の身元平地区署で調査していたが平市仲町一八会社員三平嘉久彌さん（五七）の女中江川幸子さん（一九）と判つた

江川さんは昨年九月三平さん宅に女中として住込んでいたが同日午後七時ころ無断家出していたもので平市署に捜査願いが出ていた、原因は調査中

大谷石
五丁目 電六六 井上

美理容師の試験
試験制度の最後の試験

湯通り理美容試験は学科は十月十一日 実地は十六十七の両日平商業学校講堂（予定）で開く、受験出来るものは今までで受験して落ちたものだけで願書締切は九月二十五日までもよりの保健所で受付ける

今後理美容師の免許をとるには理美容学校を出なければならなくなるわけで試験はこれか最後である

遺族国債を
銀行預金通帳に

内郷町では戦没者遺族国債を担保に遺族更生資金借入の申請を五月、八月の二回にわたつて遺族者から申請され、このほど更生資金としての東邦銀行預金通帳が作成されたので

十七日午前九時から役場会議室で該当者百三十八名に対し交附した、交附された遺家族は何時でも現金化されるので喜こんでいる

綴小校竣工近し

内郷町綴小校の整地工事はこの程竣工したので十六日午後二時から現場で引渡式を行つた、

この校庭は三千坪という町内切つての広大なもので 新築校舎も去る五月総工費千八百八十一万円で着手され建坪七百二十四坪収容人員八百名、教室十八と言う整備されたモデル校で既に八割五分が竣工、九月末日までは完成の見込みで、十月初旬ころ落成式があげられるもよう

四倉本町通
国庫負担で舗装

四倉町の本通り国道舗装は予ねての懸案として町民から早急実現方を要望されていたが、去る十二日県から通達あり、工費八百四十一万円全額国庫負担で舗装することに決つた、同町では近く入札の上遅くも来月中旬には着工の運びにしたい意向である

三町村教委会

湯本 内郷、磐崎三町村教育長会議は十六日午後一時から湯本町公民館で開き、学制発布八十周年記念事業について協議した結果来る十一月三日（文化の日）を中心にして湯本町公民館で教育講演会、記念植樹を行い、小学校の部の音楽会は内郷で、また中学校の弁論大会は湯本で催され、教育功ろう者の表彰も行うことを決議した

好間に疑似赤痢

好間村大字小館西三八佐藤カツ子さん十七日疑似赤痢と判り隔離した

接待婦を殴る

湯本町栄田土工中野自吉一（三二）は十五日午後九時から同町吹矢カフエー柳屋の接待婦佐伯節子さんほか二名に理由なく因縁をつけてなぐり、土足で店内にまで追いかけ乱暴を働き 暴行並びに営業妨害現行犯で湯本地区署に検挙された

川部堤防決壊

川部村沼辺地内用水堀は十六日夜半の豪雨で約三メートルにわたり堤防が決壊田約四町二反に高さ三尺平均冠水、同地内は出花したばかりだつたので収穫不能とみられる

出生死亡
（十七日届出）

出生ー平市一丁目水野浩市長女実津十、平市田町六八神谷八郎長男賢司平市新川町一二逸来信男三女順子

死亡ー平市五丁目四大谷一夫（三〇）平旧城跡一一高橋金二郎（八〇）

仕出し 割烹 湖畔

社員数名募集
お金を上手に殖したい方
お金を手軽に借りたい方
お気軽にお出で下さい
三菱殖産株式会社
東京都千代田区神田神保町三ノ二七
大蔵省受理第四七一号
平営業所 平市白銀町（電一、三八二）
福島営業所
小野新町出張所
若松営業所
当社は全国相互金融協会（有力四〇社加盟）の正会員で全国主要都市八十箇所に営業所があります

皆様のお食事のデパート
生寿司
和洋料理
不二屋 電 八八六

毛糸は
アオキヤ
TEL 401

酒 ひさご 五丁目 電一二〇四

七十年！研究の精華
ライトインキ
平市 魁文堂 電313番

胃腸科外科
呼吸器科外科
整形外科
産婦人科
放射線科
労災保険指定医
鉄道嘱託医
マツオ医院
院長 松尾正平
副院長 瀬川力
放射線科 山下義有
平市大町（東北電力西隣）電一五四

お車の御用は
大型中型小型
685番
三井タクシー

サンカー三輪自動車
◎高出力と静粛作動を誇る◎
強大なる馬力 ガソリン経済
丈夫で安全の良い車
L型の気筒エンジン、スターテングモーター付、前進四段ミツシヨン装備した一、一〇〇CC三輪トラックは振動少々快適な運転が出来、積載量に応じ燃料費の少く設計された高級車です又V型の気筒エンジンの八五〇CC車と二種が有ります
福島県代理店
有限会社 東北サンカー商會
平市白銀町 電一〇六九

肉は神戸牛専門の緑屋

内科
産婦人科
性病科
外科（胃腸科）
整形外科
レントゲン科
前田清美
前田春雄
◎病室完備
災害保険指定診療所
前田医院
石城郡植田町本町六三 電話植田二二四番